

東通原子力発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合が開催されました

平成26年10月27日、原子力規制委員会の「東通原子力発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合」の第11回評価会合が開催され、当社から、これまでの有識者から示された見解等を踏まえ、「敷地内断層に活動性がない」と考える理由等について、具体的なデータを示し、議論しました。

当社としては、有識者会合の議論は、科学的、専門的な観点から合理性のある結論を求める状況には至っていないと受け止めており、引き続き、当社と十分な議論を重ねていきたいと考えております。

～これまでの経緯～

当社は、東通原子力発電所の原子炉設置許可申請時に実施した地質調査で得られた膨大なデータをもとに、敷地内断層は活動性がないと評価し、国による安全審査(平成8年～10年)において「地震を引き起こすような活断層ではない」との評価を受けました。さらにその後の耐震バックチェック(平成18年～24年)においても評価を変える指摘はありませんでした。

しかし、原子力規制委員会の有識者会合において「敷地内断層の活動性」が指摘されたことから、当社は平成24年7月から実施していた追加地質調査の拡充を図り、平成26年1月、敷地内断層が「将来活動する可能性のある断層等ではない」という評価結果を取りまとめ、原子力規制委員会に報告しております。

(参考)追加地質調査の概要



■トレンチ調査



試掘溝を掘り、地形や地質分布、断層の性状等を調査。追加地質調査では9箇所を実施。(これまでの調査を含めると、合計70箇所の調査を実施)

■水平掘削面調査



断層直上の堆積層を段階的に水平に掘削し、横ずれ断層特有の構造の有無を調査。

■ボーリング調査



地下の岩石等を連続的に採取し、地質分布、断層破砕部の固結状況等を調査。追加地質調査では、約13,000mの調査を実施。(これまでの調査を含めると合計約53,000mの調査を実施)

青森県原子力防災訓練に参加しました

東通原子力発電所は、平成26年11月8日、青森県、東通村、むつ市、野辺地町、横浜町、六ヶ所村が主催する「青森県原子力防災訓練」に参加しました。

この訓練は、当発電所において原子力災害が発生したことを想定して行われたもので、住民への情報伝達訓練や広域避難訓練、緊急被ばく医療訓練等が実施されました。

また、当発電所内でも、社員および構内協力会社の約50名が参加し、休日当番体制時における緊急事態への対応能力の向上を図るため、各種対策の総合的な訓練を実施しました。

～当社が参加した主な訓練～



代替注水訓練(発電所内)



電源確保訓練(発電所内)



緊急被ばく医療訓練(青森市)

<発電所内で実施したその他訓練>

- ・対策本部の「運営訓練」
- ・社内外への「通報訓練」
- ・電源車、消防車への「燃料補給訓練」
- ・ホイールローダーを用いた「がれき撤去訓練」など

【電源確保訓練 参加者の声】

今回の訓練では、全交流電源喪失という事象の中で、電源車による電源確保の手順について、再確認することができました。また、非常時の自身の動きについても確認できたので、今後の日常業務においても、その心構えを忘れずに業務にあたりたいと思います。



電気保修課
成田 隆志

東通中学校において「環境・エネルギー教室」と「放射線教室」を開催しました

東通原子力発電所は、平成26年10月、東通中学校の生徒を対象に「環境・エネルギー教室」および「放射線教室」を開催しました。参加者からは「自然を大切にして環境や世界のために協力しなくてはならないと思った」、「放射線は怖いものだと思っていたが身近なところで使われていることを知って安心した」などの感想が寄せられました。

地域の子供たちに環境やエネルギー、放射線などの理解を深めていただくため、今後もこうした活動を継続してまいります。



3年生を対象とした
「環境・エネルギー教室」の様子



1年生を対象とした
「放射線教室」の様子